

みずほマーケット・トピック(2024 年 11 月 1 日)

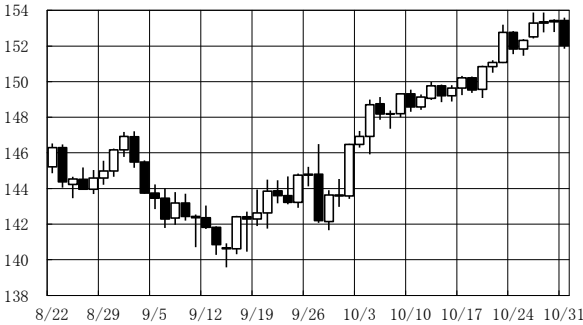
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

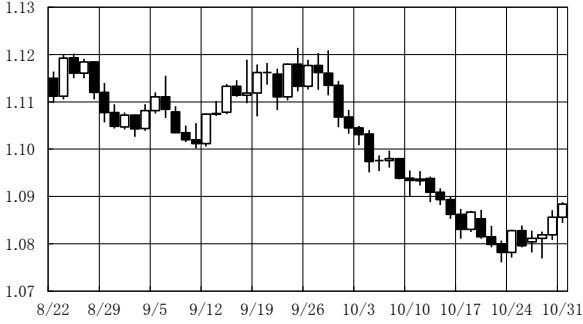
- 今週のドル/円は週初に約3か月ぶりの高値を付けたが、その後は上値重く推移した。週初28日、152.96円でオープンしたドル/円は、本邦衆議院選挙の結果を受け、本邦政局を巡る不透明感から円売りが加速。一時、7月31日以来の高値となる153.88円まで急伸。海外時間は、米金利動向に合わせ、下に往って来いとなった。29日、ドル/円は高値警戒感から153円を割り込む展開。海外時間は、米金利上昇を受け週高値付近に上伸も、その後は強弱入り混じる米経済指標の結果に上下に振らされる展開。結局、堅調な米国債入札を受けた米金利低下を背景に、153円台前半で引けた。30日、ドル/円は材料難の中、153円台前半で小動き。海外時間は、米金利低下を嫌気し153円を割り込む場面も見られたが、米10月ADP雇用統計の強めな結果を好感し153円台半ばに反発した。31日、ドル/円は日銀金融政策決定会合の政策決定(現状維持)をこなしつつ、展望レポートの内容がややタカ派の解釈され円買い優勢となり、153円を割り込む展開。海外時間は、堅調な米経済指標を受け一時的に153円に乗せる場面もあったが、米金利が上昇幅を縮小する中、一時151.84円に反落した。本日のドル/円は、週安値を更新しながら取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは独金利の反発を受け上昇した。週初28日、1.0797でオープンしたユーロ/ドルは下落してスタートも、米金利が下げに転じたことに支えられ1.08台前半に反発した。29日、ユーロ/ドルは米金利上昇に押され一時週安値となる1.0769まで値を下げた後、低調な米雇用指標の結果を機に1.08台前半に値を戻し、下に往って来いとなった。30日、ユーロ/ドルはユーロ圏7~9月期GDP(速報)など欧州経済指標の良好な結果を受け1.08台後半へ上昇。その後、複数の米経済指標の強めな結果を嫌気し一時1.08台前半まで軟化するも、独10月消費者物価指数(CPI、速報)の強い結果を受けた独金利上昇を好感し、1.08台後半を回復した。31日、ユーロ/ドルはユーロ圏10月消費者物価指数(HICP、速報)の強めの結果を受け一時週高値となる1.0888に上昇。その後米金利上昇で1.08台半ばに下押す場面もあったが、引けにかけては週高値付近を回復した。本日のユーロ/ドルは、引き続き週高値付近で取引されている。

		前週末	今 週				
		10/25(Fri)	10/28(Mon)	10/29(Tue)	10/30(Wed)	10/31(Thu)	
ドル/円	東京9:00	151.79	152.96	153.13	153.25	153.24	
	High	152.38	153.88	153.87	153.50	153.62	
	Low	151.45	152.41	152.76	152.78	151.84	
	NY 17:00	152.33	153.29	153.37	153.41	152.02	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0824	1.0797	1.0818	1.0820	1.0858	
	High	1.0839	1.0828	1.0826	1.0871	1.0888	
	Low	1.0794	1.0783	1.0769	1.0808	1.0844	
	NY 17:00	1.0797	1.0811	1.0819	1.0855	1.0884	
ユーロ/円	東京9:00	164.37	165.05	165.60	165.76	166.32	
	High	164.79	166.03	166.04	166.58	166.65	
	Low	163.97	164.79	165.20	165.54	165.00	
	NY 17:00	164.35	165.72	165.90	166.55	165.45	
日経平均株価		37,913.92	38,605.53	38,903.68	39,277.39	39,081.25	
TOPIX		2,618.32	2,657.78	2,682.02	2,703.72	2,695.51	
NYダウ工業株30種平均		42,114.40	42,387.57	42,233.05	42,141.54	41,763.46	
NASDAQ		18,518.61	18,567.19	18,712.75	18,607.93	18,095.15	
日本10年債		0.94%	0.97%	0.97%	0.95%	0.93%	
米国10年債		4.24%	4.28%	4.26%	4.30%	4.28%	
原油価格(WTI)		71.78	67.38	67.21	68.61	69.26	
金(NY)		2,754.60	2,755.90	2,781.10	2,800.80	2,749.30	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、6日(水)～7日(木)にFOMCが開催される。前回9月会合では、▲50bpの倍速利下げを実施。利下げは4年半ぶり。市場予想は▲25bpと▲50bpで割れていた中、パウエルFRB議長の会見からは「本当は▲25bpで十分だが、7月にやらなかった分を加味して▲50bp」というロジックが透けた。パウエル議長は倍速利下げを「後手に回らないという我々の決意」と表現し、また「新しい利下げペースと考えるべきではない」とも述べた。次回以降の利下げが▲25bpペースに戻ることを強く示唆する。その後、9月FOMCから足許にかけては、堅調な米経済指標の相次ぐ公表、および慎重な利下げ路線を強調するFRB高官の発言も相まって市場の利下げ織り込みは大きく剥落している。もっとも、11月会合では依然▲25bpの利下げがほぼ100%織り込まれた状態にある。

そのほか、FOMC直前の5日(火)には米大統領選挙および議会選挙の投開票を控える。本稿執筆時点の市場予測を確認する限り、議会選挙は共和党が優勢、大統領選挙もトランプ氏への支持が高まってきたように見える。実際10月後半の金融市場では、所謂「トリプルレッド」への警戒感が米タームプレミアムおよび米金利の上昇に寄与したとの解釈が多かった。開票速報は日本時間6日(水)の東京時間に順次流れることが想定される。円相場も、変動性が大きくなる展開は避けられそうにない。トランプ氏であれば円売り、ハリス氏であれば円買いとの初期反応になりそう、というのが市場の思惑だろうが、特に経済財政政策の観点では同時に開催される議会選挙の動向も注視すべきであろう。

	本 邦	海 外
11月1日(金)	・10月製造業PMI(確報)	・米10月雇用統計 ・米10月製造業PMI(確報) ・米10月ISM製造業景気指数
4日(月)	—————	・ユーロ圏10月製造業PMI(確報) ・ユーロ圏11月センチックス投資家信頼感 ・米9月製造業受注
5日(火)	—————	・米9月貿易収支 ・米10月ISM非製造業景気指数 ・米大統領選挙 投開票
6日(水)	・10月非製造業PMI(確報) ・日銀金融政策決定会合議事要旨(9月会合分)	・独9月製造業受注 ・ユーロ圏9月生産者物価指数 ・米FOMC(7日まで)
7日(木)	・9月毎月勤労統計	・独9月鉱工業生産 ・独9月貿易収支 ・ユーロ圏9月小売売上高 ・米パウエルFRB議長会見
8日(金)	・9月家計支出 ・9月景気動向指数(速報)	・米11月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2024年11月～)】

米大統領選挙 投開票(11月5日)

FOMC(11月6～7日、12月17～18日、1月28～29日)

ECB政策理事会(12月12日、1月30日、3月6日)

日銀金融政策決定会合(12月18～19日、1月23～24日、3月18～19日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年10月28日	総選挙を終えて～「デフレ脱却」はもう刺さらず～
2024年10月25日	週末版(政治不安とトリプル安～政局不安で「日本売り」なのか?～)
2024年10月23日	アコード修正という物価高対策～最もイージーな一手～
2024年10月22日	投機の円ロングはあと半分～問題はその後～
2024年10月21日	衆院選を受けた金融市場の想定～メインとリスク～
2024年10月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～対照性強まるユーロとドル～)
2024年10月17日	インフレ率「0%超」目標をどう受け止めるか?
2024年10月16日	スルーされた台湾有事～やはりなかった「リスクオフの円買い」～
2024年10月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年9月分)
	不透明過ぎる11月FOMC～1年後が気がかり～
2024年10月11日	週末版
2024年10月10日	世論が望むのは「デフレ脱却」ではなく「インフレ脱却」
2024年10月9日	失速が目立ってきたユーロ圏の経済・金融情勢
2024年10月8日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2024年10月7日	円の基本シナリオに変更の必要は?～雇用統計を受けて～
2024年10月4日	週末版
2024年10月3日	日銀短観(9月調査)と日銀の「次の一手」
2024年10月2日	外貨準備構成通貨の近況について(2024年6月末時点)
2024年10月1日	「石破カラー」は当面お預け～「3年でデフレ脱却」の不安～
2024年9月30日	石破政権が市場にもたらすのは希望か、失望か
2024年9月27日	週末版(145円到達と日銀の「次の一手」～それでも「時間的な余裕はある」～)
2024年9月25日	家計資産の外貨比率は過去最高～避けたい日本版トラスショック～
2024年9月24日	改めて考える日銀10月利上げの難易度
2024年9月20日	週末版
2024年9月19日	FOMCを終えて～思い出される糊代論と今後～
2024年9月18日	自民党総裁選～各候補の立ち位置と変わらぬ前提～
2024年9月17日	円高の背景にある需給改善～金利差に限らず～
2024年9月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～予定通りも25年以降の不透明感強く～)
2024年9月11日	ECB政策理事会プレビュー～問題は2025年以降～
2024年9月10日	衰えなかった家計部門の投資意欲～資産選別の兆候も～
2024年9月9日	デジタル赤字にまつわる誤解～米国独り勝ちというバイアス～
2024年9月6日	週末版
2024年9月5日	ドイツ産業空洞化とユーロ相場について
2024年9月4日	いよいよ注目され始めたドイツの産業空洞化
2024年9月3日	大混乱から1か月～市場は安定を取り戻したか?～
2024年8月30日	週末版
2024年8月29日	日銀の自然利子率推計について～「中立金利1%」説～
2024年8月27日	ドル売りの持続性は?～買われるユーロ、英ポンド、円～
2024年8月26日	パウエル講演を受けて～気になる労働市場への評価～
2024年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～ユーロ相場の先行きについて～)
2024年8月21日	円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか
2024年8月20日	企業買収を通じた対内直接投資の現状について
2024年8月19日	財PPP vs. サービスPPP～正しいのは円安か、円高か～
2024年8月16日	週末版(欧州経済の現状について～人手不足から需要不足へ～)
2024年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分)
	ポスト岸田の考え方～金融政策の大勢に影響なし～
2024年8月14日	24年上半期の需給環境について～ほぼ均衡～
2024年8月13日	投機が去った円相場～注目は「家計の円売り」へ～
2024年8月9日	週末版(「円安バブル」報道について②～2005～07年との比較分析～)
2024年8月8日	「円安バブル」報道について①～05～07年との比較分析～
2024年8月2日	週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか～「やっぱり変わっていなかった」の怖さ～)
2024年8月1日	日銀会合を受けて～ドル/円相場の考え方～
2024年7月25日	週末版
2024年7月24日	インバウンド、「量」から「質」の意味するもの
2024年7月23日	バイデン撤退も市場動かず～円ショートは依然膨大～
2024年7月19日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「賃金は必ず下がる」という自信～)
2024年7月18日	日銀会合プレビュー～円高だからこそ利上げ～
2024年7月17日	進むインフレ税による財政再建～資金循環統計～
2024年7月16日	復活しつつある「インフレの輸入」～利上げへの追い風～
2024年7月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分)
	週末版(金利差に騒がない大事さ～問題は投機が去った後～)
2024年7月11日	株価、「真正正銘のバブル超え」の読み方
2024年7月10日	最近の円相場の需給環境について
2024年7月8日	米大統領選挙、現時点の解釈～為替市場の視点～
2024年7月4日	円安功罪論について～総論と各論を分けるべし～
2024年7月3日	短観(6月調査)が意味するもの～利上げは可能か～
2024年7月2日	フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月1日	24年上半期を終えて～円は真正正銘の最弱通貨～
2024年6月28日	週末版
2024年6月27日	家計金融資産の現状～外貨比率は最高値更新へ～
2024年6月25日	「隠れ円安」への正しい理解～実効円安を見る努力を～
2024年6月24日	為替政策報告書～日本のリスト入りは形式上の不備～
2024年6月21日	週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告～フランス極右政党 vs. 欧州委員会～)
2024年6月19日	本邦5月貿易収支を受けて～思ったよりも減らない赤字～
2024年6月18日	久しぶりの欧州政治騒動～27年まで波乱無しが基本に～
2024年6月17日	日銀金融政策決定会合を終えて～上がる期待値～
2024年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年5月分)
	週末版
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見通し～
2024年6月12日	既に前年実績を超えてしまった「家計の円売り」
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか?～収益率で考える未来～
2024年6月4日	敢えて考える対内直接投資促進の「負の側面」
2024年6月3日	強含む経済指標に囲まれるECB～ユーロ相場の考え方～
2024年5月31日	週末版
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏妥結賃金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版